

# 学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

## I 基本情報について

問1 学校名をお答えください。

## II ヤングケアラーについて

問2 学校で「ヤングケアラー」についての共通認識が図られていますか。  
(あてはまるもの1つを選択)

- 1 十分図られている
- 2 やや図られている
- 3 図られていない

問3 学校で「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。  
(あてはまるもの1つを選択)

- |                                    |   |                              |
|------------------------------------|---|------------------------------|
| 1 把握している                           | ⇒ | <input type="checkbox"/> 問4へ |
| 2 ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない | ⇒ | <input type="checkbox"/> 問5へ |
| 3 把握していない                          | ⇒ | <input type="checkbox"/> 問8へ |

問4 問3で「1 把握している」を選択された場合はお答えください。  
「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。  
(あてはまるもの1つを選択)

- 1 アセスメントシートやチェックリストなどを活用している
- 2 特定のツールはないが、できるだけヤングケアラーの視点\*を持って対応している
- 3 その他(具体的に： \_\_\_\_\_ )

※ ここでは、「学校内にヤングケアラーが存在する可能性があること」、あるいは「ヤングケアラーの児童生徒の立場を考えること」とする。

問5 ヤングケアラーと思われる子どもについて、学校以外の外部（教育委員会、市役所、要保護児童対策地域協議会\*など）の支援につないだ事例はありますか。

（事例の中で最も多いもの1つを選択）

- |  |   |     |
|--|---|-----|
| 1 要保護児童対策地域協議会*に通告した事例がある                        | ⇒ | 問8へ |
| 2 要保護児童対策地域協議会*に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ事例がある | ⇒ | 問8へ |
| 3 学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない                   | ⇒ | 問6へ |
| 4 外部の支援につなぐことができていない                             | ⇒ | 問7へ |

※ 保護者のない児童又は保護者に監護させることが不相当であると認められる児童（以下、「要保護児童」という。）の適切な保護を図るため、関係機関等により構成され、要保護児童及びその保護者に関する情報の交換や支援内容の協議を行う会議

問6 問5で「3 学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない」を選択した場合はお答えください。具体的な対応方法について教えてください。

（例：校内の〇〇会議で検討し、その後保護者も交えて面談をした など）

問7 問5で「4 外部の支援につなぐことができていない」を選択した場合はお答えください。つなぐことができていない理由を教えてください。（あてはまるものすべてを選択）

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1 不登校やいじめなどに比べ緊急性が低い                 |
| 2 家族内のことであるため表面化しづらく、詳細な実態の把握ができていない |
| 3 ヤングケアラーである子ども自身やその家族が問題を認識していない    |
| 4 本人や家族が支援につなぐことを拒否している              |
| 5 その他（具体的に： _____）                   |

問8 ヤングケアラーなど悩みを抱える子どもの把握や支援にあたって、工夫していることはありますか。（あてはまるものすべてを選択）

- |                                    |
|------------------------------------|
| 1 子どもの身なりや言動など、日常生活での目立った変化の確認     |
| 2 子どもを対象としたアンケート調査などの実施            |
| 3 定期的な子どもとの面談による悩みなどの有無の確認         |
| 4 子どもや保護者がいつでも相談できる窓口の設置           |
| 5 個別の支援計画等の作成と教職員間での情報共有           |
| 6 子ども本人やその家族が利用できる外部の支援窓口についての情報提供 |
| 7 悩みを抱える子どもへの対応などについての研修の実施・参加     |
| 8 その他（具体的に： _____）                 |

問9 ヤングケアラーなど悩みを抱える子どもの把握や支援にあたって、難しいと感じることはありますか。(あてはまるものすべてを選択)

- 1 問題が表面化しにくく、詳細な把握が難しいこと
- 2 子どもからの聞き取りだけでは、十分に状況が把握できないこと
- 3 保護者への連絡や家庭訪問を行っても、コンタクトが取りづらいこと
- 4 家庭へ介入しづらいこと
- 5 子ども自身に困っている様子は見られるが、話したがないこと
- 6 子ども自身やその保護者に問題意識が乏しい、または無いこと
- 7 保護者から教育方針やしつけなどと言われてしまうこと
- 8 教職員が子どもとじっくり話をする時間が不足していること
- 9 その他(具体的に： )

問10 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまるものすべてを選択)

- 1 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
- 2 教職員がヤングケアラーについて知ること
- 3 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
- 4 スクールソーシャルワーカー(SSW)やスクールカウンセラー(SC)などの専門職の配置が充実すること
- 5 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
- 6 ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
- 7 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
- 8 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
- 9 ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること
- 10 福祉と教育の連携を進めること
- 11 その他(具体的に： )

問11 ヤングケアラーに関して自由に意見をお書きください。

調査は以上となります。御協力ありがとうございました。